昭和六十一年

日本思想史関係研究文献要目

凡例

一、本要目には、昭和六十一年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。

一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録　Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

Ⅰ Ⅱ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総雑

日本思想史入門　第2版　相良亨編　ぺりかん社
日本思想史叙説　第3集　竹内整一・西村道一・窪田高明編　〃
時代区分の思想—日本歴史思想序説　石田一良編　〃
日本思想史の研究—王朝より中世　望月兼次郎　文化書房博文社
日本文化の深層を考える　網野善彦ほか　日本エディタースクール出版部
日本人の再発見—民衆史と民俗学の接点から　色川大吉　小学館
「近代化」の再考—その思想的基軸を求めて　中込道夫ほか　北樹出版（刊行）学文社（発売）
大系仏教と日本人1、4～6、11　井上光貞監修　上山春平〃　春秋社
9、民俗と儀礼　村落共同体の生活と信仰　宮家準編　小学館
〈宗派別〉日本の仏教—人と教え
2　真言宗　松長有慶編
5　日蓮宗　高木豊編
6　臨済宗　西村恵信編　思文閣出版
禅宗文化史の研究　桜井景雄　総持寺出版部
曹洞教団の形成とその発展—総持寺の五院体制を視点にして　中嶋仁道
仏教と差別　仲尾俊博　永田文昌堂
神仏習合（ロッコウブックス）　逵日出典　六興出版
大嘗祭の構造　平野孝国　ぺりかん社
陰陽五行と童児祭　吉野裕子　人文書院
日本芸能史論　林屋辰三郎　淡交社
1　「座」の環境
2　「数寄」の美
3　「手」の芸術
自決の日本史　モーリス・パンゲ（竹内信夫訳）　筑摩書房
武士道の歴史123　高橋富雄　新人物往来社
王道と革命の間—日本思想と孟子問題　野口武彦　筑摩書房
日韓文化交流史の研究　芳賀登　雄山閣出版
日本人の国家生活—日本国制史研究Ⅱ　石井紫郎　東京大学出版会
天皇・天皇制の歴史　井上清　明石書店
天皇と天皇制を考える（歴研アカデミー1）　歴史学研究会　青木書店
天皇と日本文化（もんじゅ選書26）　村上重良　講談社

古代

神話の系譜—日本神話の源流をさぐる　大林太良　青土社
古代の女—神話と権力の淵から（平凡社選書94）　倉塚嘩子　平凡社
古事記の世界観　神野志隆光　吉川弘文館
記紀と古代伝承　伊野部重一郎　〃
大和国家と神話伝承（古代史選書6）　松前健　雄山閣出版
古代国家と宗教文化　重松明久　吉川弘文館
古代神仙思想の研究　下出積與　〃
日本霊異記—土着と外来（三弥井選書）　黒沢幸三編　三弥井書店
日本仏教史—古代　速水侑　吉川弘文館
行基と律令国家（古代史研究選書）　吉田靖雄　〃
徳一論叢　田村晃祐編　国書刊行会
慈覚大師伝の研究　佐伯有清　吉川弘文館
源氏物語の史的空間　後藤祥子　東京大学出版会
古代政治史における天皇制の論理（古代史研究選書）　河内祥輔　吉川弘文館
平安貴族（平凡社選書97）　橋本義彦　平凡社
井上光貞著作集 2 5 8 11　井上光貞　岩波書店
早川二郎著作集 4 古代社会史と日本文化論　福原正実　加藤喜久代編　未来社

中世

中世再考—列島の地域と社会　網野善彦　日本エディタースクール出版部
検非違使—中世のけがれと権力（平凡社選書102）　丹生谷哲一　平凡社
異形の王権（イメージ・リーディング叢書）　網野善彦　〃
愚管抄を読む—中世日本の歴史観（平凡社選書93）　大隅和雄　〃
本願寺と一向一揆　辻川達雄　誠文堂新光社
越後の親鸞—その足跡と愚禿の実像　武田鏡村　恒文社
宮崎円遵著作集—親鸞の研究　宮崎円遵著作集編集委員会編　思文閣出版

近世

論集近世女性史　近世女性史研究会編　吉川弘文館
江戸時代と近代化　大石慎三郎　筑摩書房
近世再考—地方の視点から　中根千枝　日本エディタースクール出版部
水戸光圀（水戸史学選書）　塚本学　水戸史学会
山崎闇斎の研究（神道史研究叢書）　名越時正　神道史学会
後期水戸学研究序説—明治維新史の再検討　近藤啓吾　吉田俊純　本邦書籍
叢書・日本の思想家26 皆川淇園・大田錦城　加地伸行ほか　明徳出版社

渡辺華山（人物叢書187）　佐藤昌介　吉川弘文館
評伝高島秋帆　石山滋夫　葦書房
藤井高尚と松屋派　工藤進思郎　風間書房
幕末教育史の研究 3諸藩の教育政策　倉沢剛　吉川弘文館
論集日本仏教史 7江戸時代　圭室文雄編　雄山閣出版
開国期基督教の研究　藤井貞文　国書刊行会
佐幕派論議　大久保利謙　吉川弘文館
近代日本の反権力思想—龍馬の『藩論』を中心に　関家新助　法律文化社
坂本竜馬の後裔たち　中野文枝　新人物往来社

近代

明治維新（国連大学コミュニティレクチュア・シリーズ3）　永井道雄編　東京大学出版会
新世代の国家像—明治における欧化と国粋　M・ウルティア編　社会思想社
日本における庶民的自立論の形成と展開　ケネス・B・パイル（五十嵐暁郎訳）　ぺりかん社
福沢諭吉の亜米利加体験（福沢諭吉協会叢書）　藤原暹　福沢諭吉協会（出版）文化総合出版（発売）
明治啓蒙期の経済思想—福沢諭吉を中心に　山口一夫　法政大学出版局
「文明論之概略」を読む上、中、下（岩波新書）　杉山忠平　岩波書店
森有礼（人物叢書188）　丸山真男　吉川弘文館
日本近代思想と中江兆民　犬塚孝明　吉川弘文館
内村鑑三伝—米国留学まで　米原謙　新評論
〈太平洋の橋〉としての新渡戸稲造　鈴木俊郎　岩波書店
山川均の生涯—戦前編　太田雄三　みすず書房
大逆事件と『熊本評論』　川口武彦　社会主義協会出版局
大川周明—百年の日本とアジア　上田穣一編著　岡本宏編著　三一書房
石橋湛山—自由主義政治家の軌跡（中公叢書）　松本健一　作品社
和辻哲郎（20世紀思想家文庫17）　筒井清忠　中央公論社
南方熊楠外伝　坂部恵　岩波書店
「七一雑報」の研究（同志社大学人文科学研究所研究叢書19）　笠井清　吉川弘文館
明治初期神戸伝道とD・Cグリーン（日本キリスト教史双書）　同志社大学人文科学研究所編　同朋舎出版
近現代における「家」の変質と宗教　茂義樹　新教出版社
天皇制国家と宗教（日評選書）　森岡清美編　新地書房
大正・昭和教育の天皇制イデオロギー1 2　村上重良　日本評論社
幻視の革命—自由民権と坂本直寛　山本信良　今野晴彦　新泉社
松岡僖一　法律文化社

陸軍ファシズムと天皇　田口利介　国書刊行会

日本ファシズムの言論弾圧抄史—横浜事件・冬の時代の出版弾圧　畑中繁雄著　梅田正己編　高文研

大久保利謙歴史著作集1 25　大久保利謙　吉川弘文館

II　雑誌・紀要論文目録

総　雑

日本思想史・文化史の時代区分と過渡期（変動期）について—上—（変動期の文化と宗教）　石田一良　日本文化研究所研究報告　二二

いわゆる「日本学」をめぐって　岩井忠熊　日本史研究　二八五

理の批判—日本思想におけるプレモダンとポストモダン　講演　柄谷行人　現代詩手帖二九

最近の日本思想界の焦点—2—　山本晴義　大阪経大論集　一七二

「日本的なるもの」とは何か（「日本的なるもの」とは何か〈特集〉）　インタビュー　加藤周一　橋川俊忠　現代の言論二三

表層—深層分析の流行と「深層文化論」—日本学・天皇制論・日本国家論に関連して（天皇制イデオロギー批判）　岩崎允胤　季刊科学と思想　六〇

ポスト・モダンが暗示するもの—二一世紀に向けての日本イデオロギー　H. D. Harrotunian　杉山光信訳　文芸　二五—一

「古層」論への懐疑　子安宣邦　現代の理論　二三—七

日本文化論の現在　鹿野政直　人民の歴史学　八九

日本思想史の立場から（〔教育哲学会第28回大会〕研究討議—教育哲学における思想研究のあり方）　武田清子　教育哲学研究　五三

「官地論」諸本研究史をめぐる問題点　橋本治　北陸史学　三五

日本における宗教弾圧の歴史と構造　村上重良　法律時報　五八—九

国家仏教の形成　二葉憲香　二葉憲香博士古稀記念『日本仏教史論叢』

日本における国家と仏教—保護と弾圧　〃　木村武夫先生喜寿記念『日本仏教史の研究』

僧伝文学の世界〈特集〉　鎌田純一　国文学　解釈と鑑賞　五一—九

日本人のカミ観念　永原慶二　大倉山論集（大倉精神文化研）　一九

日本前近代の浄穢観念と身分差別　外池昇　歴史学研究　五五五

陸墓観の変遷　多田信彦　成城文芸　一一五

民衆史研究会編『民衆生活と信仰・思想』　今井修　会報（民衆史研究会）　二五

日本宗教と修験道―研究の現況と課題　沼田健哉　桃山学院大学社会学論集　二〇―一

日本文学に及ぼしたインド思想の影響　講演　中村元　二松学舎大学人文論叢　三二

比較社会思想史研究―4―日本思想の典型・外来思想受容のパターン　古賀勝次郎　早稲田社会科学研究　三三

日本国家論研究ノート　池田元　日本史学集録（筑波大）　三

「日本学」と天皇制イデオロギー―梅原猛氏の所説をめぐって（天皇制を問う〈特集〉）　岩崎允胤　文化評論三〇一

天皇制にまつわる神々の影　佐木秋夫　季刊科学と思想　六一

日本前近代社会の展開と天皇　永原慶二　日本史研究　二八三

民衆史と民俗学の接点―変革主体の形成とフォークロア　色川大吉　日本民俗学　一六四

安蘇谷正彦著『神道思想の形成』　小笠原春夫　国学院雑誌　八七―二

古代

日中比較古代文化史論の試み(1)―古代国家と民族　工藤雅樹　研究年報（宮城学院女大・基督教文化研）　一八

「帝紀」と『記・紀』　梅沢伊勢三　日本歴史四五三

古事記序文の一考察―「先代の舊辭」を中心にして　藤井信男　大倉山論集二〇

飛鳥の禮文―特に天皇記・国記等の撰録に及ぶ　村尾次郎　大倉山論集二〇

東アジア諸国開国始祖伝説の比較―『三国史記』『三国遺事』及び『元朝秘史』と『古事記』との比較　夜久正雄　紀要（亜細亜大・アジア研）　一三

記・紀の神学―記中巻の歴史叙述の論理　大内建彦　古代研究　一八

「古事記」における宗教的・世俗的な表現への新しいアプローチ　W. Kotanski　駿台史学　六八

「古事記」における〈今〉―物語りの時間をつきぬけた〈今〉について　佐藤米子　実践国文学三〇

「ヤマトタケル」と「日輪」　井上謙　日本大学理工学部一般教育教室彙報　四〇

『古事記』神話の思想史的意義―国史を貫く回顧と前進　山内健生　国学院雑誌　八七―一一

古事記造化三神の構想―『金光明経』三身論からの一身論　瀬尾満　国学院雑誌　八七―一一

記紀神話における「天」（アメ）と「国」（クニ）について　永井紀代子　北山茂夫追悼日本史学論集『歴史における政治と民衆』

サホヒメとホムチワケ物語から見た『古事記』・『日本書紀』の構成とその意義―記紀神話に見る古代性と複合性　三谷榮一　国学院雑誌　八七―一一

古代における穢について―特に記紀より見たその用法　土谷博通　国学院雑誌八七―一一

日本書紀の成り立ちを考える―仏教関係の記述をめぐって、その(一)　榎本福寿　研究紀要（仏教大）七〇

日本書紀の成り立ちを考える―仏教関係の記述をめぐって、その(二)　〃　研究紀要（仏教大・院）一四

「日本書紀」と怨霊　八重樫直比古　ノートルダム清心女子大学紀要文化学編一〇

出雲国風土記神魂命の性格―祖霊信仰を中心に　金光すず子　日本文学論究四五

日本古代儒教における学的自覚の形態　菅野覚明　倫理学紀要（東大・文・倫理）三

大江匡房の思想と信仰　小原仁　研究紀要（名古屋芸大）八

摂関院政期の明法家と王朝国家―中世公家訴訟制度成立史の一視角　上杉和彦　史学雑誌九五―一一

平安時代女性の真名漢籍の学習―11世紀ごろを中心に　岩崎卓也　史叢三六

古墳時代祭祀の一側面―いわゆる祭と墓の分化をめぐって　永島福太郎　神道古典研究会報八

春日若宮について　加藤雅也　仏教史研究二二・二三

八幡神成立考　松木裕美　韓国文化八―二

高句麗仏教と日本初期仏教―民間仏教への影響と高句麗僧の文化的影響　武田賢寿　紀要（同朋学園・仏教文化研）七・八

太子における篤敬三宝と国家統一　早島鏡正　大倉山論集二〇

聖徳太子における浄仏国土観　中村生雄　現代思想一四―九・一一

変容と再生の聖王―聖徳太子信仰の始源と生成(1)(2)　米川康雄　文化史学四二

平安時代成立の諸書所引「聖徳太子伝」と『聖徳太子伝暦』　上川通夫　立命館文学四九〇～四九二

8世紀の私度僧をめぐって　吉田一彦　仏教史研究二二・二三

行基と呪術　朝枝善照　『日本仏教史論叢』

最澄の「天台宗」確立の歴史的意義　鶴岡静夫　紀要（青山学院大・文）二七

最澄の宗教の成立　仲尾俊博　『日本仏教史の研究』

最澄の二つの法華経観　渡辺守順　日本仏教学会年報五一

伝教大師の撰述から見た菩薩観　北条賢三　〃

真言密教の菩薩観　佐伯有清　日本常民文化紀要一二

慈覚大師伝の研究(2)　曽根正人　史学論集（就実女大）一

9世紀に於ける天台宗の八宗体制への同化

横川仏教貴族化の一面―尋禅と妙香院　堀大慈　『日本仏教史論叢』
源信浄土教に見る念仏と浄土往生思想　藤本佳男　〃
「往生要集」の白毫観　福原隆善　浄土宗学研究一六
「往生要集」の別相観―「観仏三昧海経」の影響をめぐって　〃　仏教学セミナー四三
源隆国編「安養集」について―「往生要集」との関係を中心として（含資料）　梯信暁　南都仏教五六
源経頼の仏教信仰に関する一考察―源信浄土教との関係を中心に　岡野浩二　史学論集（駒沢大）一六
「勧学会記」について　後藤昭雄　国語と国文学六三―六
源為憲と『空也誄』―空也研究の方法的前提として　木下文彦　仏教史研究二二・二三
証真の即身成仏論　大久保良峻　フィロソフィア七三
役小角の研究　村山修一　紀要（愛知学院大・文）一五
久世神社と熊野修験者―久世神社祭神成立考　山香茂　尋源三六
金峯山飛来伝承と五台山信仰　山本謙治　文化史学四二
万葉人の歴史空間　大津透　国語と国文学六三―四
河原院と源融の風流―平安朝文人の意識をめぐって　田中徳定　駒沢国文二三
日本霊異記の世界観―仏国土に於ける救済の論理　仲井克己　国文学研究九〇
源氏物語の物忌―紫式部と陰陽道信仰　藤本勝義　紀要（青山学院女短大）四〇
源氏物語と住吉信仰　熊谷保孝　神道及び神道史四四
「浮き身」にして「憂き身」なること―宇治十帖主題論　佐藤勢紀子　国語と国文学六三―七
今昔物語の〈仏法〉と〈王法〉―その固有性をめぐって　前田雅之　日本文学三五―四
定家歌論に於ける「妖艶」の本質―歌合判詞を中心として　種田美由紀　日本文芸研究三七―四
「愚管抄」と「大鏡」―その説話について　尾崎勇　国文学論叢二九
古代ヤマトの世界観―ヒナ（夷）・ヒナモリ（夷守）の概念を通じて　平野邦雄　史論三九
吉備氏始祖伝承の形成過程　湊哲夫　『歴史における政治と民衆』
日常性と古代天皇制　関和彦　研究論集（共立女子二中・高）九
律令制国家の〈祭祀〉構造とその歴史的特質―宗教的イデオロギー装置の分析　西宮秀紀　日本史研究二八三
古代国家と民間祭祀　荒木敏夫　歴史学研究五六〇
律令国家の祭祀と天皇　矢野建一　〃
平安時代の「儀式」と天皇　古瀬奈津子　〃

詔書・勅旨と宣命　森田悌　日本歴史四六二
「元旦四方拝」と魂まつり　渡部真弓　神道宗教一二二
大嘗祭について　大野健雄　神道古典研究会報八
大嘗祭の久米舞と中国禘祭の大武―神武伝説久米歌由来譚の背景　廣畑輔雄　民族学研究五一―一
釋奠構成論―祭りの構造と儀礼文化　倉林正次　神道史研究三四―三
神道葬祭成立考　岡田荘司　神道学一二八
中臣寿詞と持統朝　土橋寛　文学五四―五
8世紀在地祭祀の重層構造　糸井仁　『歴史における政治と民衆』
古代祝詞の変質　三宅和朗　史学五六―三
『出雲国造神賀詞』奏上儀礼の成立　大浦元彦　史苑四五―二
律にみえる「大社」についての一考察―唐律との比較を中心に　楠本行孝　二十二社研究会編『平安時代の神社と祭祀』
『延喜式』祝詞の成立について　三宅和朗　日本歴史四五四
諸国一宮祭礼試論　誉田慶信　高橋富雄編『東北古代史の研究』
奈良時代の対仏教政策―得度の問題を中心に　若井敏明　ヒストリア一〇九
行基の諸施設と救済事業をめぐって　宮城洋一郎　『日本仏教史論叢』
良弁杉説話と大仏鋳造　黒沢幸三　『歴史における政治と民衆』

平安前期神社祭祀の「公祭」化　岡田荘司　『平安時代の神社と祭祀』
平安時代前期の大中臣祭主家―祭主制度成立に関する一試論　小松馨　〃
平安時代初期、朝廷の怨霊認識についての一試論　池上正二　湘南史学七・八
怨霊思想と仏教統制　稲岡彰　紀要(法学)(明大・院)二三
御霊会の成立と平安初期政治の終焉―神仏習合の内実　中川修　『日本仏教史論叢』
平安時代宮廷の神仏隔離―『貞観式』の仏忌避規定をめぐって　佐藤真人　『平安時代の神社と祭祀』
天暦期の御願寺―『新儀式』の記載をもつ意味　大江篤　人文論究(関西学院大)三五―四
村上天皇の仏教信仰について　三橋正　史聚二一
貴族社会に於ける穢と秩序　山本幸司　日本史研究二八七
平安時代の祈雨奉幣　並木和子　『平安時代の神社と祭祀』
「百神」と「天地の神」―古代村落祭祀に関する覚書　増尾伸一郎　『古代中世の政治と地域社会』
奈良・平安時代における疫神観の諸相―杯・皿形人面墨書土器とその祭祀　笹生衛　『平安時代の神社と祭祀』
井上光貞著『日本古代の王権と祭祀』　石尾芳久　法制史研究三五

井上光貞著『日本古代の王権と祭祀』　遠山美都男　歴史評論四二九
河内祥輔著『古代政治史における天皇制の論理』　大隅清陽　人民の歴史学九〇
松前健著『大和国家と神話伝承』　守屋俊彦　古代文化三八―一一
宮城洋一郎著『日本古代仏教運動史研究』　朝枝善照　仏教史学研究二九―一

中世

金沢文庫の教化について　乾克己　金沢文庫研究二七六
日本中世武家家訓の倫理的特徴(1)―日本倫理思想の研究　星宮智光　紀要（聖母女学院短大）一五
中世の自力救済をめぐって―研究状況と今後の課題　村井章介　歴史学研究五六〇
中世寺院の社会的機能についての一考察―高野山を例として　本郷和人　史学雑誌九五―四
中世における天皇の呪術的権威とは何か　伊藤喜良　歴史評論四三七
北条時政の信仰（上）　今井雅晴　仏教史学研究二九―二
北畠親房の摂政関白観　白山芳太郎　神道史研究三四―一
北畠親房における歴史と神道の接点　〃　神道古典研究会報八
中世法における敬神思想　〃　神道宗教一二三
「桜雲記」と「関城書」　安井久善　語文（日大国文学会）六六
夢窓疎石と初期室町政権　玉懸博之　研究年報（東北大・文）三五
守護大名甲斐武田氏の対禅政策　伊藤克己　宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）二八
戦国大名今川氏の宗教政策―富士大宮浅間神社を中心に　大久保俊昭　地方史静岡一四
京童ノロズサミ―「二条河原の落書」をめぐって　佐藤和彦　歴史評論四三九
永享の乱と足利学校の再興―関東管領上杉憲実の出所進退と「五経註疏」寄進の契機　橋本芳和　政治経済史学二三八
戦国期権力における本願寺・一向一揆体制　遠藤一　『日本仏教史論叢』
信濃善光寺如来仏―王法と仏法　奥野高廣　日本歴史四五二
戦国期若狭武田氏と寺社―とくに顕密寺社を中心に　林文理　『戦国期権力と地域社会』
境内墓地の経営と触穢思想―中世末期の京都に見る　高田陽介　日本歴史四五六
四角四堺祭の場に生きた人々　伊藤喜良　歴史（東北史学会）六六
二つの立場―法然の専修念仏とそれに対する批判をめぐって　稲垣不二麿　愛知大学文学論叢八一
法然の送山門起請文について　中野正明　仏教史学研究二九―一

親鸞聖人の生涯とその教学　石田充之　『日本仏教史の研究』
親鸞の時機観　一楽真　親鸞教学　四八
親鸞と被差別民（3）（4）（5）　河田光夫　文学　四―一・三・五
親鸞に於ける「菩薩」の概念　武田龍精　日本仏教学会年報　五一
聖典と肖像の伝授―親鸞の「選択付属」をめぐる〈仏法〉の意味　中村生雄　日本文学　三五―四
親鸞の一乗海釈　秦治人　紀要（大谷女子大）　二〇―二
親鸞における菩薩道　幡谷明　日本仏教学会年報　五一
親鸞と危機意識―宗教的主体の形成　安富信哉　大谷学報　六五―四
親鸞における穢土の認識　山崎龍明　『日本仏教史論叢』
親鸞における真と俗の問題―真俗二諦論批判の視点　〃　理想　六三三
親鸞教学と末法思想―特に二種深信との関連において　白川晴顕　印度学仏教学研究　三四―二
親鸞浄土教における福祉思想　吉田久一　紀要（東洋大・社会）　二三―二
貞慶の陀羅尼信仰について　冨村孝文　紀要（流球大・法文）　二九
貞慶における道理真理説の考察　間中潤　仏教学研究四二
発心集における法華経説話について　岩田諦静　大崎学報一三九

「然阿上人伝」について　玉山成元　仏教文化研究　三一
思円房叡尊と羅漢信仰　高橋秀栄　金沢文庫研究　二七六
叡尊・忍性にみられる慈悲行の実践　奈良弘元　精神科学　二五
栄西の『興禅護国論』を改めて考える　古田紹欽　印度学仏教学研究　三四―二
宋代中日関係史上における脇然と栄西の役割　王雲海・張徳宗（鈴木貴子訳）　『探究』
正法眼蔵における究尽について―正法眼蔵抄との比較　粟谷良道　宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）　二八
道元禅師の授記思想　池田魯参　紀要（駒沢大・仏教）　四四
一色（いっしき）の弁道と只管百姓―道元禅師と江渡狄嶺　斎藤知正　仏教経済研究　一五
道元禅解釈の一視点―「即心是仏」の心について　田中晃　哲学論文集二二
一遍智真の廻国遊行考―その風流的なるものをめぐって（上）（下）　渡辺喜勝　米沢史学一・二
中世仏教の福祉思想―道元と日蓮　吉田久一　年報（東洋大・社会学研）　一八
日蓮聖人の「未来記」をめぐって　北川前肇　印度学仏教学研究　三四―二
日蓮の「予言」をめぐる問題　〃　理想　六三三

日蓮の受難と鎌倉幕府の宗教政策　佐々木馨　印度哲学仏教学一
日蓮聖人における一闡提成仏と仏性　関戸堯海　大崎学報一四一
日蓮聖人の霊山往詣信仰について—佐渡期の遺文にみられる説示を中心として　都守基一　紀要（日蓮教学研）一三
日蓮聖人の「逆罪」解釈をめぐる一試論　原慎定　〃
日蓮聖人の「依正不二」観について　松脇行真　〃
日蓮聖人遺文の「説話」について　龍門義通　〃
日蓮の初期布教の課題　渡辺宝陽　宗教研究六〇—一
日蓮と常不軽菩薩　中条暁秀　日本仏教学会年報五一
日蓮の「法華経行者」意識と「地涌菩薩」認識　渡辺宝陽　〃
中世社会と禅宗　今枝愛真　静岡県史研究一
中世禅宗における国家観　原田弘道　仏教経済研究（駒沢大）一五
室町幕府奉行衆と禅林　蔭木英雄　相愛大学研究論集二
中世地方禅院の発展に関する一考察—薩摩野田感応寺の場合　上田純一　史淵一二三
栄西門流と曹洞宗　中尾良信　宗学研究（駒沢大・曹洞宗宗学研）二八
初期曹洞禅における坐禅観の一側面　原田弘道　紀要（駒沢大・仏教）四四
「元亨釈書」撰者に関する異説の解釈—「碧山日録」の記事をめぐって　佐藤静子　国文学論考二二
中世仏教における菩薩思想—特に曹洞宗における地蔵菩薩信仰を中心として　石川力山　日本仏教学会年報五一
中世末期の争乱と曹洞宗寺院の動向—北・東信濃地方を中心として　遠藤広昭　地方史研究三六—三
一入覚門禅師と功山寺　笹尾哲雄　山口県地方史研究五六
元の幻住明本とその海東への波紋　西尾賢隆　日本歴史四六一
東国武士と法然浄土教—谷保の住人津戸三郎の場合　亀山純生　紀要（東京農工大・一般教育）二三
真宗思想史上の岐路　重松明久　親鸞教学四八
真宗に於ける菩薩観　徳永大信　日本仏教学会年報五一
親鸞と門下の課題—とくに善鸞と如信について　菊地勇次郎　茨城県史研究五七
教団成立時に於ける信と歴史について—覚如・存覚の宗教的立場　高橋事久　『日本仏教史論叢』
蓮如と真慧　千葉乗隆　『日本仏教史の研究』
蓮如上人の六字釈とその成立背景　普賢晃寿　竜谷大学論集四二八

中世日御崎神社の虚像と実像　井上寛司　研究紀要（大社町史）一

中世に於ける日吉祭の祝詞―『日吉御祭祝言』と『日吉祭礼祝言凡十三条』について　佐藤眞人　大倉山論集（大倉精神文化研）一九

白光・善妙神と明恵　重富滋子　神道及び神道史四四

山王神道についての一・二の問題　菅原信海　神道古典研究会報八

越後国弥彦神社の中世神事　中野豈任　新潟史学一九

伊勢神官をめぐる本地垂迹思想　高橋美由紀　紀要（東北福祉大）一〇

伊勢神道への真言教義の影響―中臣祓天神祝詞を中心として　平泉隆房　神道史研究三四―一

鎌倉期鶴岡八幡宮寺の宗教的特質とその役割について　吉田通子　日本仏教史学二一

仏教史と文学史　今成元昭　国文学解釈と鑑賞五一―六

中世仏教草創期の法語―法然・道元・日蓮を通して　〃

中世説話集の仏法・王法論　小峯和明　日本文学三五―四

時衆の遊行と文芸の地方伝播　金井清光　〃　文学五四―一二

中世文学における王法と仏法　黒田俊雄　日本文学三五―四

中世仏教説話における愛欲の捉え方―「閑居友」を中心として　仁平恭治　東北学院大学論集（一般教育）八二

願行上人憲静について　橋本初子　金沢文庫研究二七六

北面佐藤義清とその遁世　目崎徳衛　短歌六一―一

承元期の慈円―隠遁と和歌　山本一　紀要（金沢大・教育）三五

『水鏡』構想論序説―政治史的側面と『大鏡』の継承　福田景道　論叢（秋田短大）三八

徒然草についての二、三の考察―その王朝憧憬と東国嫌悪　西川清治　紀要（法政大・教養）五八

曽我物語（真名本）の王権・反王権（上）・（下）　福田晃　日本文学三五―四・五

心敬美観の感覚的側面の構造　菅基久子　日本思想史学一八

中世文学と禅―宗祇の「老のすさみ」と心敬の「さゝめごと」をめぐって　東専一郎　関西大学哲学一二

室町時代物語「釈迦物語」考―仏伝経典への志向　黒部通善　愛知学院大学論叢（一般教育）三三―四

神話の系譜―「中世神話」について―お伽草子の本地物の理解のために　徳田和夫　国文学解釈と鑑賞五一―六

今井雅晴著『中世社会と時宗の研究』　細川涼一　史学雑誌九五―一二

二木謙一著『中世武家儀礼の研究』　福田豊彦　国史学一二九

二木謙一著『中世武家儀礼の研究』　南啓治　帝京史学二

近世

江戸思想の世界性（対話）　柄谷行人・子安宣邦　現代思想一四―一〇

江戸の精神　柄谷行人　〃

近世における日本型華夷観と東アジアの国際関係　Ronald P. Toby 著　佐藤正幸訳　日本歴史四六三

幕末日本における中国観の変化　日比野丈夫　論集（大手前女大）二〇

注釈学的世界―江戸思想序説（1）～（3）　柄谷行人　文芸二五―一～三

「儒教文化圏」論の一考察―「和魂洋才」と「中体西用」の分れ目　戴国煇　世界四九五

中日両国の朱子学研究　姚瀛艇著　古屋昭弘訳　『東アジア世界史探究』

日本の朱子学受容の概論―二―近世草初期社会と朱子学　中拂仁　国士館大学政経論叢五五

藤原惺窩における「人倫」像―「理」と「復古」をめぐって　遠山敦　倫理学年報三五

林羅山と朝鮮通信使　李元植　朝鮮学報一一九・一二〇

宮城県図書館伊達文庫蔵林鵞峰撰「本朝通鑑編輯始末」　高橋章則　日本思想史研究一八

池田光政の藩政改革と熊沢蕃山―近世における儒教受容の一形態　荻生茂博　歴史六七

山崎闇斎における敬説の転回　近藤啓吾　金沢工業大学研究紀要B―九

藤森神社と山崎闇斎　〃　神道史研究三四―三

垂加神道における「死」の問題　安蘇谷正彦　国学院雑誌八七―一一

懶斎・惕斎と「文公家礼」　田尻祐一郎　文芸研究（日本文芸研究会）一一三

赤穂事件と佐藤直方の「理」　〃　日本思想史研究一八

山鹿素行の思想　新田大作　実践国文学三〇

楠公と山鹿素行　中山広司　芸林三五―三

伊藤仁斎研究　子安宣邦　大阪大学文学部紀要二六

伊藤仁斎の「中」および「権」の思想　大谷雅夫　季刊日本思想史二七

日本経済思想史における仁斎　川口浩　〃

伊藤仁斎における「同一性」批判の構造―人我相異論の形成過程　丸谷晃一　〃

伊藤仁斎の「仁」理解―「仁遠乎哉」章をめぐって　藤本雅彦　〃

仁斎学研究の方法と課題　三宅正彦　〃

伊藤仁斎の思想的基盤―氏神・菩提寺・町人的規範　〃　日本歴史四六一

伊藤仁斎の哲学―上―　村上恭一　法政大学教養部紀要五八

徂徠学管見　今中寛司　日本歴史四五六
元禄学芸と徂徠学　高橋博巳　金城国文　六二
「論語徴癈疾」管見　藤川正数　桜美林大学中国文学論叢　一一
梅園の「条理」について―条理は二値論理である　三箇文夫　精神科学　二五
安藤昌益論著「統道真伝」における「糺聖失」の現代的意義　野田彦四郎　名古屋女子大学紀要　三二
広瀬淡窓と四人の先儒―淡窓と蕃山・仁斎・白石・徂徠　三澤勝己　〃　紀要（国学院大・院）　一七
広瀬淡窓の学統と「読論語」　〃　国史学　一二九
日本教師論―六―広瀬淡窓とその師道論　小野禎一　東北福祉大学紀要　一〇
近世の均田思想と町人学者　三溝博之　経済学研究（国学院大）　一七
正司考棋
中斎学書の刊行と大坂出版界　今田洋三　大塩研究　二〇・二一
洗心洞と湯川廬洞　佐藤良雄　〃
『浪華異聞』を読んで　向江強　〃
大塩平八郎と「邪宗門一件」　藤原有和　人権問題研究室紀要（関西大）　一三
大塩事件と打ちこわし続出下における〃大塩ブーム〃ならびに〃大塩狩り〃の状況―大坂城代家老「鷹見泉石日記」にえがかれた天保八（一八三七）年二～三月の動向　中村紀美子　中瀬上義光　中瀬寿一　大阪産業大学論集・社会科学編　六四
京都と大塩事件―上―天保期京都の社会経済状態と〃大塩ブーム〃、幕府の〃大塩狩り〃旋風　中村上義光　中瀬寿一　大阪産業大学論集・社会科学編　六五
聖堂と巌邑―林述斎と佐藤一斎　山崎道夫　斯文　九二
佐藤一斎の思想と教育（Ⅲ）　山縣明人　政治経済史学　二三七
佐藤一斎の思想　村山佐　日本私学教育研究所紀要　二一―二
藍沢南城の荀子学　藤川正数　斯文　九一
朱子学者大槻磐溪の西洋観　梅澤秀夫　紀要（清泉女大）　三四
安井息軒の「辨妄」について―上―　清水直美　桜美林大学中国文学論叢　一一
安井息軒覚書　町田三郎　東方学　七二
佐久間象山の西洋理解と「道徳」―二―　後藤広子　日本大学精神文化研究所・教育制度研究所紀要　一七
インド大反乱と佐久間象山　古川学　史学　五五―四
「誠意」のゆくえ―大橋訥菴と幕末儒学　宮城公子　日本史研究　二八五
吉田松陰の「国体」論―アイディンティティの模索　栗田尚弥　政治経済史学　二三七
吉田松陰の教育実践と思想（10）　村田甚吾　紀要（帝塚山短大・人文社会科学）　二三
吉田松陰における行動の理念　立川章次　駒沢史学　三五

幕末長州藩における楠公崇拝の思想—吉田松陰と楠公　上田孝治　芸林　三五—三

幕末における「狂」の問題—高杉晋作の死生観を中心に　合田晃治　早稲田政治公法研究　一九

松平春嶽の思想形成の段階について—嘉永・安政年中を中心として　伴五十嗣郎　神道史研究　三四—一

万延元年（一八六〇）遣米使節の異国体験による思想変容に関する一考察—一—　朴聖雨　河原国男　筑波大学教育学系論集　一〇—二

第二次薩摩藩米国留学生覚え書—日米文化交流史の一齣　犬塚孝明　日本歴史　四五三

山本常朝における「生」と「死」—上—　小池喜明　東洋大学紀要・教養課程編　二五

葉隠の成立と基調　池田史郎　九州文化史研究所紀要　三一

赤穂義士論に関する考察—上—近世武士道論序説　田中佩刀　明治大学教養論集　一九一

洋学における技術　吉田忠　研究紀要（たばこと塩の博物館）　二

青木昆陽の『阿蘭陀文字大通辞答書』と『和蘭文字略考』について—成立年代を繞って　吉田厚子　洋学史研究　三

阿蘭陀通詞小川悦之進　片桐一男　〃

『海内蘭学諸家名鑑』について　〃　〃

賀茂真淵と倭文子墓碑　鈴木淳　国学院雑誌　八七—六

松坂修学期の本居宣長—家の宗教をめぐって　森瑞枝　〃　八七—一一

禍津日神考—本居宣長の神学（上）（下）　上田賢治　〃　八七—三・四

宣長の両部神道批判—思想と言語の問題に関連して　袴谷憲昭　仏教学　二〇

鈴木朖の学問—「大学参解」を中心として　竹田健二　東洋文化（東洋文化振興会）　二九

大国隆正の平田篤胤入門に関する一考察　松浦光修　皇学館論叢　一九—四

幕末国学の転回と大国学—国学における「政治」と「宗教」　桂島宣弘　『歴史における政治と民衆』

鶴峯戊申の国学思想　佐藤孝敏　〃

六人部是香の国学思想—顕幽思想と産須那信仰論を中心として　〃　史境　一二

鈴木重胤の間人近正宛書信をめぐって　加藤隆久　国学院雑誌　八七—一一

「海防彙議」に載せられた「海防説階」について　藤本レイ　史叢　三七

尊王攘夷運動の思想—中瑞雲斎を中心に　寺脇恵　歴史学研究　五五三

勤王党と土佐国学の学統　松本幹男　日本文化（拓殖大）　一

国学における教化論の性格—3—復古主義的教育理念の成立　山中芳和　岡山大学教育学部研究集録　七三

出口延佳の同体異名の神観　西川順士　神道史研究　三四―二
伊勢神道における「死」の問題―中西直方を中心に　安蘇谷正彦　国学院雑誌　八七―五
対馬藩の学問（2）―『陶山先生事状』　上野日出刀　秋田義昭　辺土名朝邦　岡田武彦　活水論文集二九
紀州藩の藩校について　秦昭長　『南紀徳川史』研究　一
近世越後中蒲原地方における郷村教学の展開―茨曽根所在「関根氏墓誌」の一考察　赤沢計真　新潟史学　一九
中沢道二私新抄（1）～（4）　木南卓一　論集（帝塚山大）五一～五四
二宮尊徳私考（1）～（3）　川本彰　農業協同組合　三二―四～六
報徳社運動について　仁木良和　立教経済学論叢　二九
大原幽学の思想と実践　針生清人　研究年報（東洋大・アジア・アフリカ文化研）二〇
徳川時代の老農と小農技術および勤倹節約の思想　鈴木敏央　日本文化（拓殖大）一
幕末民衆の情報と世直し意識の形成―「年代記」のフォークロア　高橋敏　静岡県史研究二
日本人の精神史の中の「切支丹」考補遺―一―　水林澄雄　明治学院論叢　三八七
フランシスコ・ザビエルの「大日」採用・使用について　岸野久　『キリシタン研究』　二六
キリシタン禁令と薬樹院宗―伴天連追放令の経緯をめぐって　兼子恵順　『日本仏教史論叢』
近世前期の寺院復興運動―鈴木正三を中心にして　奥本武裕　竜谷史壇　八七
近世中期における持戒念仏運動―忍澂とその門流を中心として　平田厚志　『日本仏教史論叢』
白隠の護法論と民衆教化　心山義文　〃
良寛に於ける慧能大鑑禅師の影響と同質性　長谷川洋三　早稲田人文自然科学研究　二九
「妙好人伝」成立過程の考察　朝枝善照　竜谷史壇　八八
近世石見の「妙好人」とその背景　小林俊二　林陸朗先生還暦記念会編『近世国家の支配構造』
遊行上人の廻国と盛岡藩の対応　圭室文雄　〃
薩摩藩真宗禁教下における三業安心の展開　星野元貞　『日本仏教史論叢』
幕末薩摩藩真宗禁制政策の転回構造　鮫島重喜　竜谷史壇　八八
近世沖縄の地方村落と仏教　知名定寛　『日本仏教史の研究』
東照宮信仰の一考察―神遊幸の信仰と東照宮勧請を中心として　高藤晴俊　国学院雑誌　八七―一一

武蔵・相模の東照宮―民間で祀る事例を中心に　中野光浩　郷土神奈川一八

元文度大嘗会の再興について　武部敏夫　研究論集（大正大・院）一〇

西三河における御鍬信仰の展開―伊勢信仰在地定着の一形態　野本欽也　中京民俗研究二

道中記にみる伊勢参詣―近世後期から明治期を通して　小松芳郎　信濃三八―一〇

尾張藩における富士信仰と修験　田中善一　中京民俗研究二

「大山不動霊験記」にみる大山信仰　圭室文雄　郷土神奈川一八

香川景樹歌論について　角田宏子　日本文芸研究三八―一

時代の精神史の中で　尾藤正英　国文学・解釈と教材の研究三一―一五

復讐論の系譜―中国から日本へ　野口武彦　〃

忠臣蔵と王権の論理　山口昌男　〃

忠臣蔵伝承の荷い手たち―徂徠、仲蔵、南北、九代目団十郎、雲右衛門、青果など　渡辺保　〃

白川琴水の生涯とその教育思想　多賀秋五郎　人文学会紀要（国士館大・文）一八

豊臣政権の対外認識　北島万次　『中世・近世の国家と社会』

秀吉の朝鮮侵略における神国意識　北島万次　歴史評論四三八

前近代における民衆の変革意識と天皇―幻想の「王」と「王孫」意識をめぐって　佐々木潤之介　日本の科学者二一―九

「御威光」と象徴―徳川政治体制の一側面　渡辺浩　思想七四〇

幕藩制中期における支配意識―享保期を中心に　心山義文　竜谷史壇八八

幕藩権力と女性―『官刻孝義録』の分析から　菅野則子　『論集近世女性史』

江戸時代の商家経営と経営理念の本質―企業者活動と家訓を中心として　三ッ木芳夫　紀要（札幌大・女短大）七

維新団にみる長州藩民衆の郷土防衛意識　池田利彦　山口県地方史研究五六

幕末・維新期における村落「自治」と村落指導者層　谷山正道　史学研究一七一

渡辺浩著『近世日本社会と宋学』　尾藤正英　歴史評論四四〇

田崎哲郎著『在村の蘭学』　柴田一　史学雑誌九五―一〇

青木美知男著『文化文政期の民衆と文化』　藤田覚　歴史学研究五五九

青木美知男著『文化文政期の民衆と文化』　保坂智　歴史評論四三八

近代

明治期「漢学」の課題　渡辺和靖　研究報告（愛知教育大・人文）三五

近代教科書にみる「大化改新」観の変遷　見城悌治　立命館史学　七

お雇い外国人―その日本文明への視点　工藤英一・山口静一也　比較文化（東京女大）三二―一

「百学連環」の英文原資料について―2―　小玉斉夫　論集（駒大外国語学部）二四

明六社についての一考察―その成立時における2、3の問題　山本幸規　文化史学　四二

阪谷素にみる伝統と啓蒙―その接点の解明　小股憲明　季刊日本思想史　二六

明六社における学術論争の意味―「学者職分論争」を手がかりとして　小林嘉宏　〃

明治啓蒙期の妾論議と廃妾の実現　小山静子　〃

幕末・維新期における中村敬宇の儒教思想　源了圓　〃

藩学から明治の中学校への連続性に関する考察　神辺靖光　人文科学会紀要（国士大）一八

近世塾の近代化過程の研究―咸宜園と慶応義塾を例として　多田建次　論叢（玉川大）二六

日本の近代化と札幌農学校―新渡戸稲造と太平洋問題を主題として―2・3―　蝦名賢造　経済学研究（独協大）四三・四四

新渡戸稲造の植民思想　平瀬徹也　紀要（東京女大比文研）四七

日本の近代と福沢諭吉の啓蒙思想　安川寿之輔　社会思想史研究　一〇

福沢諭吉と国会開設運動　飯田鼎　三田学会雑誌　七八―六

福沢諭吉と条約改正運動（1）―福沢諭吉と馬場辰猪　〃　三田学会雑誌　七九―四

福沢諭吉の思想的内実―その宗教論を通して　藤原正信　『日本仏教史論叢』

福沢諭吉研究ノート（8）―『文明論之概略』の草稿の考察（4）　進藤咲子　論集（東京女大）三六―二

朝鮮と福沢諭吉　石坂巌　三田商学研究　二九―二

西洋文明と至文至明　神山四郎　近代日本研究（慶大福沢研）二

「独立」と「情愛」―福沢諭吉と市場社会　坂本多加雄　〃

日本近代化の使徒―福沢諭吉　井田輝敏　〃

福沢諭吉と「工場法」―晩年の福沢の経済思想の一つの側面　藤原昭夫　〃

福沢諭吉と新渡戸稲造―『武士道』を中心として　飯田鼎　〃

「脱亜論」と中国分割論に関する一考察―福沢思想の現代的意義をもめぐって　今永清二　近代日本研究二

知識人集団としての明六社―森有礼と福沢諭吉の視点から　戸沢行夫　近代日本研究二
福沢諭吉と中江兆民―壬午事変をめぐって　松永昌三　〃
福沢諭吉とW・ブラックストン『イングランド法釈義』―『西洋事情』第2編における導入にまつわる若干の問題　安西敏三　〃
「時事新報」における福沢諭吉の言論活動　有山輝雄　〃
豊前・豊後および大坂の学問と福沢家　佐藤一郎　〃
森有礼の啓蒙と教育（上）　沖田行司　人文学（同志社大人文）一四三
森有礼の文明観―明治初年代における「文明」の課題　中野目徹　日本歴史四五六
森有礼―その「近代的」人間観と「国家主義的」人間観　平田珠里　国史学研究（竜谷大）一二
中江兆民―その「理」と「無神無霊魂」　中川洋子　『日本仏教史論叢』
中江兆民の無署名論説―全集本の認定作業を考える　後藤孝夫　日本史研究二八六
田中正造と谷中村の復治　葛井義憲　論集（名古屋学院大人文）二三
短歌改革論の思想史的位置　大岡信　国文学解釈と教材の研究三一
デフォーと蘇峰（序論）　大橋和男　報告（日大生産工学部）B一九
帝国議会開設以前における徳富蘇峰の政治構想　梶田明宏　日本歴史四五三
言論の商業化―明治二〇年代「国民之友」　有山輝雄　コミュニケーション紀要（成城大）四
伊藤博文のロシア行と歴史家徳富蘇峰　柴崎力栄　日本歴史四六二
操山大西祝研究序説―大西と明治の哲学　石関敬三　社会科学討究（早大社研）三一―三
梁川をめぐる人人―「回覧集」を中心に（2）　川合道雄　人文学会紀要（国士大）一八
留岡幸助と家庭学校　村山幸輝　論集（四国学院大）六三
啓蒙思想の批判的継承―現代日本における倫理学構築のために　堀孝彦　論集（福島大教育）四〇
明治の論理学―2―清野勉の論理思想　針生清人　白山哲学二〇
国民的価値と政治的価値―三宅雪嶺の東京図書館批判　松本三喜夫　図書館学会年報三二―三
内藤湖南の学問形成に関する一考察　加賀栄治　紀要（文教大教育）一九
浮田和民の大アジア主義　中村尚美　社会科学討究（早大）三二―二
近代における政治・宗教・教育―「内村鑑三不敬事件」と「教育と宗教の衝突」論争を中心に　福島清紀　紀要（法政大教養）五八

思想史における近代化の問題—内村鑑三をめぐって　渋谷浩　キリスト教研究所紀要（明学大）一八

日露非戦論—内村鑑三と深沢利重を中心にして　稲田雅洋　研究報告（愛教大社会）三五

柏木義円の戦争観の変容—日清戦争から日露戦争に至る過程を中心として　山崎益吉　論集（高崎経済大）二八—四

山路愛山研究（2）—袋井の風来伝道師　川崎司　静岡近代史研究一二

田口卯吉における市民社会像　張翔　史学研究一七三

木下尚江における〝超越〟の思想（上）　高橋正明　早稲田大学史記要一八

野生の信徒木下尚江の思想形成　清水靖久　社会科学論集（九大教養）二六

田中王堂の哲学思想　磯野友彦　社会科学討究（早大）三一—三

大正期国民教育論に関する一考察—井上哲次郎の国体論を中心に　森川輝紀　日本歴史四六三

津田左右吉における天皇　小関素明　立命館文学四九六～四九八

大正期における西洋女性解放論受容の方法—エレン・ケイ「恋愛と結婚」を手がかりに　金子幸子　社会科学ジャーナル（国際基督教大）二四—一

武者主義共生農園の模索—新しき村の創設期をめぐって　大津山国夫　国語と国文学六三—一〇

一五年戦争下の哲学・再考—京都学派の哲学　古田光　思想の科学七—七二

〈近代の超克〉と〈ポスト・モダン〉—西田幾太郎への一視点　中村雄二郎　現代思想一五—一

親鸞浄土教と西田哲学（一）　武田龍精　真宗学七三

西田哲学をめぐる最近の論点—書評を兼ねて　大橋良介　哲学研究四七—一〇

西田哲学に於ける繫辞論と我汝哲学　野口恒樹　皇学館論叢一九—三

三木清と近代化の宿命—三〇年代における理想主義のゆくえ　小林修一　紀要（法政大教養）五九

一九二〇年代論（3）三木清と林達夫（上）　渡辺一民　文学五四—三

三木清の行為の哲学と構想力の論理（中）　赤松常弘　人文科学論集（信州大）二〇

左右田哲学と牧口価値論　関順也　東洋学術研究二五—二

長谷川如是閑の日本的性格論—和辻哲郎の「風土」との比較　安川定男　紀要（中央大文）一一八

昭和思想史における倫理と宗教（8）和辻哲郎と根源的倫理学　峰島旭雄　早稲田商学三一三

昭和思想史における倫理と宗教（9）戦後思想の諸問題　〃　早稲田商学三一八

和辻哲郎後半生の宗教研究　菊川忠夫　研究報告（幾徳工大人文）一〇

大川周明の思想形成（2）—「反西洋」の精神史を中心に　大塚健洋　法学論叢一一九—三

道会機関誌『道』の「解題」ならびに「総目次」—大川周明に関する基礎的研究の一環として（1）（2）　刈田徹　論集（拓大）一五八・一六〇

保田與重郎論　阿部正路　国学院雑誌八七—八

維新の先哲と平泉澄先生の史学　小川常人　芸林三五—一・二

「芭蕉の俳」の内容と構成—平泉史学の文学的側面3題　時野谷滋　芸林三五—四

久保田収博士と水戸史学　但野正弘　神道史研究三四—四

久保田収博士の中世神道研究　白山芳太郎　〃

〈近代仏教〉の歴史的内実　福嶋寛隆　『日本仏教史論叢』

明治仏教と教育勅語（1）—仏教系の勅語衍義書を材料にして　三宅守常　大倉山論集二〇

大内青巒の教化思想と教会結社をめぐる問題　池田英俊　宗教研究六〇—一

明治中期の「欧化」状況と仏教の展開　赤松徹真　『日本仏教史論叢』

明治中期の仏教的〝近代〟の相克—村上専精を中心として　〃　竜谷史壇八七

ある僧侶と社会主義—鷲尾教導について　木村壽　『日本仏教史の研究』

日本ファシズム下の仏教—西本願寺における戦時教学形成の論理・その側面　左右田昌幸　〃

沖縄における普遍的宗教世界の黎明—仲尾次政隆と真宗　知名定寛　『日本仏教史論叢』

佐野学の戦後の親鸞理解について　藤本信隆　〃

昭和一七年の別天神論争　佐野和史　神道学（出雲復刊）一二九

初代の日本プロテスタント教会—その歴史的特質についての一考察　大村晴雄　文化（駒大）九

東北農村におけるキリスト教の受容　伊藤幹治　研究報告（国立民博）一一—一

天皇制確立期のキリスト教系私学　土肥昭夫　基督教研究四七—二

新宗教の地方への伝播・浸透・定着過程—円応教飯南教会の事例　磯岡哲也　宗教研究六〇—一

「普及福音新教伝道会」の日本伝道について　関岡一成　〃

足尾鉱毒問題と婦人キリスト者—潮田千勢子の行動と思想—下—　倉橋克人　基督教研究四七—一

第2次世界大戦前における日本カトリック教会の動向〔英文〕　高木孝子　紀要（ノートルダム清心女子大）一〇—一

日本近代史と今日の日本—「文明開化」と「自由民権」　坂野潤治　社会科学研究三八—四

西郷隆盛における維新と国家　岡崎正道　文化四九—三・四

「学制」の実施と佐賀の乱　生馬寛信　研究論文集（佐賀大教育）三四

天皇の肖像―図像の政治学への試み・明治期前半における（歴史における文化―シャリヴァリ・象徴・儀礼）　多木浩二　思想　七四〇

独立・官吏・創業―明治思想史における「政治家」と「官僚」　坂本多加雄　年報近代日本研究　八

明治一〇年代の宗教政策と井上毅　阪本是丸　国学院雑誌　八七―一一

小野梓の国権論　荻原隆　論集（名古屋学院大・人文）　二二―二

自由民権家のアジア観―改新党小野梓の場合　中村尚美　歴史学研究　五五一

都市民権派結社国友会の活動・構成　中嶋久人　民衆史研究三一

熊本の自由民権家案山子とその周辺　加藤豊子　紀要（山梨県立女短大）　一九

函館地方の自由民権運動　永井秀夫　地域史研究はこだて　三

自由民権期における地域出版文化の成立―出版結社の設立と翻刻活動　上條宏之　『長野県における社会変動と地域的対応の諸形態』

元田永孚と明治二三年神祇院設置問題　沼田哲　国史研究　八〇

陸羯南の外政論―義和団事変と善後策　山口一之　駒沢史学　三五

陸羯南のナショナリズム論―政治思想史的考察　渋谷浩　法学研究（明治学院大）　三七

山路愛山の政治思想　坂本多加雄　研究年報（学習院大法）　二一

近代日本の断層―幸徳秋水の思想構造　磯村寛治　『日本仏教史論叢』

幸徳秋水の「社会主義」思想　大原慧　東京経大学会誌　一四四

幸徳秋水の大逆事件・獄中書簡　山泉進　〃

戦前版『幸徳秋水全集』考―「幻の全集」の成り立ちと全体像　小松隆二　三田学会雑誌　七九―二

静岡県の水平運動と『自由新聞』『平等新聞』　小林丈広　静岡県近代史研究　一二

日露戦後の大山郁夫　黒川みどり　日本歴史四五七

大山郁夫の民本主義思想　〃　紀要（早大院）　別冊一二

長谷川如是閑と大山郁夫　高橋彦博　大原社会問題研究所雑誌三三七

「国民思想の動揺」と「民本主義」―第一次大戦後の議会にみる　小股憲明　人間関係論集三

大正デモクラシーと農村社会　小池善吉　論集（上武大）　一七

平和論の日置小学生とその後の社会観―大正デモクラシー期から昭和一〇年代　後藤正人　紀要（和歌山大紀州経済史文化史研）　六

黎明会とその漸進主義　中村勝範　法学研究（慶大）　五九―一二

大正期労働運動における教育認識と社会認識　奥田修三　年報（大阪経法大総科研）　五

大正デモクラシーと国体問題　鈴木正幸　日本史研究二八一

大杉栄の社会観―共同性と政治性　板垣哲夫　紀要（山形大社会）一七―一

日本近代における政治と宗教のかかわり―祭神論争を通して　出口栄二　社会科学討究（早大社研）三二―二

植原悦二郎における国民主権論の形成　宮本盛太郎　政治経済史学二三七

一九三〇年代の国内政治体制「革新」構想―蠟山政道の場合―3完―　富田宏治　法政論集（名大）一〇七

戦争動員の支柱・天皇制教育　森川輝紀　文化評論三〇一

頭山満の興亜思想と辛亥革命　趙軍　鷹陵史学一一

八太舟三のアナキズム思想　岡崎正道　社会思想史研究一〇

西郷隆盛関係文献について　西野猛　紀要（大阪府立図書館）二二

明治維新と日本近代―日露・伊近代化の比較史的検討　中村政則　史学論集（駒大）一六

国民教育研究所「自由民権運動と教育」研究会編『自由民権運動と教育』　中嶋久人　歴史評論四二九

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳蠟をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究　第二十一号

平成元年三月十五日　印刷
平成元年三月二十五日　発行

編集代表者　玉懸博之

仙台市日の出町二丁目四ノ二
印刷所　㈱仙台共同印刷

仙台市川内
発行所　東北大学文学部
日本思想史学研究室